

東大-20 年後期日程、全科類一括募集は、 “理系有利”か！？

「総合科目Ⅱ」は、数Ⅲ・数Ⅱまでの数学的解析力をみる

旺文社 教育情報センター

18 年 7 月 28 日

東大は今春、20 年の後期日程試験について、後期枠を現行の約 11%から約 3%に縮減し、文理融合型の一括した選抜を行うことを表明していた。本日、2 次試験の「総合科目」の具体的な出題範囲等も含めた実施概要(予告)を改めて発表した。「総合科目Ⅱ」の出題範囲をみると、“理系有利”の様相がうかがえる。発表された実施概要は、次のとおりである。

<募集方法・募集人員>

① 募集方法

理科 3 類を除く、全科類を 1 本化して募集する。

なお、入学手続きの際に、進学科類を登録する(理科 3 類<医学部>を除く全ての科類に進むことが可能である)。

② 募集人員；100 人(別掲参照)

<選抜方法>

① センター試験と 2 次試験、及び調査書による。

② 2 段階選抜；志願者数が募集人員に対する倍率「約 5 倍」に達した場合は、センター試験の成績により第 1 段階選抜を行う。

③ 東大の前・後期を併願した場合、前期合格者は入学手続きの完了如何にかかわらず、東大後期の第 1 段階選抜で不合格者として扱われる。

④ 合否判定は、原則として 2 次試験の結果に基づく。ただし、判定に必要なある場合には、センター試験の総得点や調査書を考慮することがある。

<入試科目>

●センター試験(5 教科 6 科目)

○国語(必須)／○地歴・公民(世界史 A、世界史 B、日本史 A、日本史 B、地理 A、地理 B、現代社会、倫理、政治・経済の 9 科目から 1 科目選択)／○数学(数学Ⅰ・A<必須>、数学Ⅱ・B、工業数理基礎(*)、簿記・会計(*)、情報関係基礎(*))の 4 科目から 1 科目選択)／○理科(物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰの 4 科目から 1 科目選択)／○外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の 5 科目から 1 科目選択。英語のリスニングテスト成績の利用については未定) *印の科目は、選択に制限あり。

● 2次試験

① 総合科目Ⅰ(100点)；英語の読解力と記述力をみる。

(英語の読解・記述を通して、表現力、構成力などを審査する。)

② 総合科目Ⅱ(100点)；事象の解析への数学の応用力をみる。

(自然や社会のさまざまな事象を数学的に解析することを問う。)

ここで用いられる数学の知識は高等学校又は中等教育学校における数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B<数列、ベクトル>・数学C<行列とその応用、式と曲線>にわたるが、この科目では数学の総合的な応用力を審査する。)

③ 総合科目Ⅲ(100点)；文化、社会、科学等に関する問題について論述させ、理解力・思考力・表現力をみる。

<20年度募集人員(予告)>

募集人員(人)		前期日程(人)	後期日程(人)
文科1類	415	401	100
文科2類	365	353	
文科3類	485	469	
理科1類	1,147	1,108	
理科2類	551	532	
理科3類	90	90	
計	3,053	2,953	100

> “理系有利?”の背景

発表された2次試験科目を高等学校の教科・科目にあてはめてみると、「総合科目Ⅰ」は英語、「総合科目Ⅱ」は数学、「総合科目Ⅲ」は国語、地理歴史、公民、理科となろう。

「総合科目Ⅰ」は文系、理系に共通だが、「総合科目Ⅱ」は数学Ⅱと数学Cが含まれていることから、現状の高等学校教育を考えれば、理系志望者に有利となろう。

また、「総合科目Ⅲ」については、日本史や世界史、物理、化学など、具体的な科目名は出さず、「各教科・科目の横断的な総合問題」であるようだ。

ところで、「総合科目Ⅲ」について、敢えて数学Ⅱ・数学Cまでを含めたのは、理系志望者をより多く確保したい狙いがあるようだ。全科類1本化における募集人員(100人)の各科類からの拠出人員は、文科1類14人、文科2類12人、文科3類16人、理科1類39人、理科2類19人となっており、文科類42人：理科類58人となっている。したがって、入学の際の進学類登録の割合が、「文科」4対「理科」6になるようにしたい大学側の狙いがうかがえるのだが-----。

なお、2次試験の「試作問題」は、今後できるだけ早期に発表したいとしている。